

皆さんはお袈裟をご存知ですか。

お袈裟はお釈迦さまから代々<sup>だいだい</sup>伝わってきた、仏教修行者の証<sup>あかし</sup>となる服装です。お釈迦さまの時代には、使わなくなって捨てられた布など、人々が執着<sup>しゅうちやく</sup>していない布を縫い<sup>ぬ</sup>合わせて作られました。お袈裟は執着を離れるという象徴なのです。現在では絹<sup>きぬ</sup>や麻<sup>あさ</sup>など様々な材料が用いられていますが、たくさんの布を縫い合わせて作られています。お袈裟の持つ意味合いは変わっていないのです。

ではこのお袈裟にはどんな意味があるのでしょうか。

お袈裟は、それを身につけることで、お釈迦さまの弟子であることを証明するとともに、身につければたいへんな功德があると言われます。それはこのお袈裟がお釈迦さまをはじめ代々の修行者が身に付けてきたものであり、その姿を見た人々はその人をお釈迦さまの弟子として敬<sup>うやま</sup>ってきたからなのです。

福井県にある大本山永平寺<sup>えいへいじ</sup>。

境内に入る最初の入口の正門の脇に「龍門<sup>りゅうもん</sup>」と書かれた石碑がひっそりと建てられています。以前はこの場所を龍門と呼んでいました。

龍門とは、昔、海の底に龍門と呼ばれる場所があり、ここを通る魚はすべて龍になると言われていました。どんな魚でも姿<sup>すがた</sup>かたち<sup>かたち</sup>はそのままに龍となる、これが龍門の由来です。

ここで大切なことは、それまでの自分の力量や門をくぐる時の動機<sup>どうき</sup>や気構え<sup>きがま</sup>などは一切関係なく、門を通るか通らないかで違いがあるという事なのです。

お袈裟を着けるということは、龍門を通ることと同じ意味があるのです。

このように大変な功德のあるお袈裟です。

僧侶や修行者だけでなく、一般の方も身に付けられる輪袈裟<sup>わけさ</sup>や絡子<sup>らくす</sup>など簡略なお袈裟もございしますので、坐禅の時や法要に参加する際に身に付けてみませんか。輪袈裟<sup>わけさ</sup>や絡子<sup>らくす</sup>については、菩提寺の住職にご相談ください。